

# 古川高等学校

校訓 質実剛健 学問尊重 自主自律



## 1 基本データ

創立：明治30年  
課程・学科：全日制課程・普通科  
生徒数：703名(男351名/女352名)  
所在地：〒989-6155  
大崎市古川南町二丁目3番17号  
TEL：0229-22-3034  
FAX：0229-23-4621

ホームページアドレス：  
<https://furuko.myswan.ed.jp/>  
電子メールアドレス：  
furuko@od.myswan.ed.jp  
主な交通機関  
JR東北新幹線・陸羽東線 古川駅下車 徒歩15分

## 2 学校の特徴

### キャッチフレーズ

#### 古高の歴史に新たなページを刻む

互いに個性を尊重し切磋琢磨する古高生  
学習・部活動・学校行事に自主的に取り組む古高生  
高い志をもち意欲的に取り組む古高生

### (1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

明治30年に宮城県尋常中学校志田郡立分校として創立されて以来、第三中学、古川中学を経て古川高校となり、平成29年に創立120周年を迎えました。創立以来、大崎地方の教育・文化の中心として有為な人材を世に送り出し、名実共に「仙北の雄」と称せられる歴史と伝統を誇っています。

自由闊達な校風で、校章の由来となっている「雪雲の功」の故事に倣って生徒は日夜、「質実剛健」「学問尊重」「自主自律」の校訓の下で文武両道に励んでいます。

校舎の全面耐震工事が平成20年に完了し、令和3年には普通教室にもエアコンが設置され、明るく快適な環境で学習できます。また、第二体育館、新体育館が新築され、創立100周年記念時には凌雲文化センターが、平成25年度にはスクールカラーを基調とした南校舎(普通教室棟)が新築されました。

学校敷地は、陸羽東線および東北新幹線古川駅から徒歩約15分の交通至便の市内中心部にあり、心とませる桜の古木や、歴史と伝統をしのばせるヒマラヤ杉、ケヤキ等の大樹に囲まれた閑静な勉強環境です。

### (2) 教育方針

清潔にして健全な品性と学業を尊重する気風とを養い、自主自律の精神を持って自発的に行動できるような豊かな人間を育成するために、以下の3項目を教育目標に掲げています。1 健全な心身の育成 2 真理の探究 3 主体性の確立

### (3) 教育課程の特色

授業は1時間45分7時間で行っています。

(1) 1学年は共通科目を履修し、特に国語・数学・英語の3教科には十分な時間をかけて学習できるように配慮しています。

- (2) 2学年では、選択した科目に応じて文系・理系クラスでの授業を展開します。1学年で学習した内容を更に発展応用させ、安定した学力の定着を図ります。
- (3) 3学年では、多様な進路希望や、多彩な大学入学選抜方法等のもとで、一人一人にきめ細かく対応できるように、選択科目を開講しています。
- (4) 授業は、夏季冬季の長期休業を短縮して授業日数を増やし、基礎基本の理解から、重要事項の定着にまで丁寧に、系統的に進めています。1・2学年全員を対象に「雪雲講座」と呼ばれる講演会を年間5回程度開講しています。3学年においては、年間を通じて課外講習(0時限、8時限)を行い、学力伸長と実力の養成に努めています。

### (4) 行事・生徒会活動・部活動

生徒の9割以上が大学進学を目標としながらも、学業面の成長に加えて、調和のとれた人間性の育成を目指しており、部活動や生徒会活動はたいへん活発です。また、企画や運営においても生徒の自主性や意見が尊重されており、一人一人が自分のやりたいことや個性を發揮できる自由で伸び伸びとした校風です。主な行事としては、対築館高校定期戦(4月)、船形山登山(5月)、古高祭(7月)、体育祭(9月)などがあります。

<令和4年度の主な成績>

運動部、文化部とも熱心に活動しており、各種大会で優秀な成績を収めています。  
令和4(2022)年度 主な部活動の大会結果(上部大会出場)

#### ◎陸上部

県総体 男子400m 3位、400mR 6位、1600mR 5位、ハンマー投げ 6位、砲丸投げ 6位(以上東北大会出場)

県新人 男子400mR 3位、女子走り高跳び 3位、女子ハンマー投げ 4位(以上東北大会出場)

#### ◎剣道部

県総体 男子団体2位 男子個人3位(以上東北大会出場) 女子団体ベスト8

東北選手権大会 男子個人ベスト8  
国体予選会 男子個人4位、ベスト8(ミニ国体出場)

#### ◎ソフトボール部

県総体 男子2位(東北大会出場)

県新人 男子3位(東北大会出場)

#### ◎水泳部

県総体50m自由形 6位(東北大会出場)

#### ◎スキー部

県総体 クロスカントリー女子5kmフリー 1位、女子5kmクラシカル 1位(東北大会・インターハイ出場)

#### ◎文芸部

とうきょう総文2022 文芸部門「詩」代表  
全国高校文芸コンクール詩部門優秀賞、小説部門、詩部門、短歌部門、俳句部門、随筆部門、部誌部門出品  
北海道・東北文芸大会 県代表

#### ◎第64回 対築館高校定期戦：

勝利(12勝3敗)

通算 古川高校43勝VS築館高校17勝

### (5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R4	R3	R2
国公立大学	107	88	75
国公立短大	1	2	1
私立大学	84	105	109
私立短大	2	4	1
専各学校	12	13	19
就職	7	4	8
その他	11	13	20
卒業生計	224	229	233

主な進路先(令和5年3月卒業生)

( )内は人数 (1)は省略

#### <国公立大学>

東北大(6)、宮城教育大(6)、北海道大、北北大函館校、弘前大(4)、岩手大(26)、秋田大(4)、山形大(8)、福島大(6)、茨城大、埼玉大(2)、宇都宮大(3)、東京学芸大、横浜国立大、新潟大(3)、信州大、会津大、秋田県立大(3)、岩手県立大(6)、宮城大(10)、高崎経済大(2)、都留文科大、他

#### <私立大学>

東北学院大(18)、東北工業大(4)、東北福祉大(15)、東北医薬科大(3)、宮城学院女子大(2)、尚綱学院大、東北芸術工科大、明治大、青山学院大(2)、中央大、日本大、専修大、国際医療福祉大、東洋大(2)、東海大(2)、東京農業大(2)、順天堂大、神奈川大、同志社大、立命館大 他

げる盛大なお祭りは今後も勢いを増していきそうです。

### 3 学校魅力発信

#### (1) 本校生徒の活躍 (令和5年度)

コロナ禍でも今年度の古高は、県総体や上部大会において活躍することができました。

山岳部は平成29年以来の最優秀校、男子が優勝しインターハイ出場となりました。ソフトボール部男子は、残念ながらインターハイは逃してしまいましたが、県で準優勝し、東北大会では大いに活躍することができました。陸上競技部は男子のリレー、女子の投てきや七種競技で東北大会出場という結果を残しました。

さらに個人では剣道部岩淵俊哉くんがベスト8に入賞し、東北大会に出場しました。また剣道部女子では、2年の櫻井凜乃さんが国体予選会で4位入賞して宮城県代表選手に選ばれ、岩手県で開催された東北総体では宮城県の副将として出場しました。

現在は、各運動部が地区新人大会、県新人大会での入賞を目指し、日々活動に励んでいるところです。

文化部も健闘していて、合唱部が県のコンクールで金賞、吹奏楽部が銀賞を受賞しました。

#### (2) 学校三大行事

##### 定期戦 (対築館高校)

コロナ禍も収束がみえてきた頃、ようやく通常開催となった第64回大会。4月27日に実に4年ぶりとなる通常の開会式を古川高校グラウンドで行い、全15種目(うち3種目は事前に実施)による競技を行いました。どの学年の生徒も経験したことのない、コロナ禍以前の形態での定期戦となりました。今年度は応援練習も中止となることなく、両校ともに非常に厳しい応援練習を乗り越えて当日を迎えました。昨年度は古川高校の9勝4敗と大差で勝利しており、今年度も再び、応援生徒が見ている前で大勝を果たす、4年ぶりとなる閉会式で全校生徒による凱歌を披露する、という強い気持ちで試合に臨みました。

当日は晴天に恵まれ、両校の全校生徒、並びに多くの職員が経験したことのない開会式が盛大に行われました。久しぶりの応援団長の口上に、涙する職員の姿も少なくありませんでした。開会式後は綱引き競技が、これも4年ぶりの実施となりました。男子は古高が2連勝を飾り、女子は1勝1敗の決定戦へもつれ込む大接戦。3年生12名による決定戦を古高が制し、まずは2連勝と大きくアドバンテージを取りました。結果は、このアドバンテージを大きく活かした古川高校が12勝3敗と、2年連続で築館高校を圧倒する結果となりました。我々古川高校は、引き続き開催となる地区、県の高校総体に向けて、各部勢いをつけることができました。



##### 古高祭

ここ3年、コロナ禍の中で大幅に縮小されてしまった古高祭。今年度はコロナ感染症が5類に移行したことを受けて、思い切ってコロナ以前の、「本来の古高祭」を、完全無制限で実施しました。しかし、すでにコロナ以前を知る高校生はおらず、1つ1つ模索しながらの古高祭ではありました。多くの試行錯誤を繰り返しながら、一般公開当日は大変な数のお客さんに圧倒されながらも、大いに古高生パワーを大爆発させました。

今年度の古高祭では、昨年度に引き続き全校モザイクアート製作や古高祭オリジナルグッズの販売などを実施し、ステージ発表の「クラスパフォーマンス」では昨年多かった「動画の部」を全廃し、参加者全員が全校生徒の前で生パフォーマンスを披露し、大変な盛り上がりとなりました。実行委員は例年通り当日まで大忙しでしたが、「コロナ以前」を目指しながらも全く新しい形式の「全員参加型古高祭」を完成させることができました。

次年度の古高祭実行委員会もすでに動きつつあり、生徒が創り上



##### 体育祭

昨年9月1・2日には待望の体育祭が実施されました。こちらまほほ例年通り、2日間での開催とし、1日目は球技の予選、2日目は球技の決勝と運動会競技を実施しました。昨年度に引き続き、開会式の準備体操時には恐怖の応援団が登場し、コミカルに踊りながら体を動かし和やかにスタートしました。各競技とも非常に熱が入り、レベルの高い試合が展開されました。多くの競技で3年生の活躍が目立ち、最後にかかる意気込みが伝わりました。最後の学校行事を意欲的に楽しもうとする姿が、本当に印象的でした。



##### (3) 学校制服紹介

学校指定の制服はありません。

ただし、服装については、古高生としての自覚と良識に基づいて各自判断し、かりそめにも恣意・放縦・華美に流れるようなことはあってはなりません。

また、容儀を正すことは自己の人格を尊重し、気品を高尚にするものであり、礼節は自己の品位を高め、他に対する敬愛の発露であるから、これを軽視してはなりません。

##### (4) 施設紹介

平成26年南校舎が普通教室棟新校舎として落成しました。また、同年トレーニングルームも設置、令和3年には普通教室にエアコン、グラウンドには照明灯が設置され、生徒の利便性が図られています。

北校舎の特別教室棟は昭和46年建設当時のままであり、今後、老朽化した校舎の刷新が待たれます。



## 4 在校生からのメッセージ

##### 生徒会長 中館 季来さん (色麻中出身)

「古川高校」と聞き、どのような事を想像しますか？勉強、部活動、自主性と沢山想像したことでしょう。古川高校の素晴らしいところは、生徒がやりたいと言ったことを全力でサポートしてくれるところです。先生方だけでなく、一緒に切磋琢磨出来る友達にも出会え、今まで出せなかった一歩を古川高校では踏み出すことが出来ます！今、私が夢を持ち、将来に向けて頑張っているのも古川高校に入学し、部活動に入り、生徒会活動をしているお陰だと思います。「文武両道」、「自主自律」が出来る環境が整っているのは古川高校だけです！真の古川高校になり一緒に沢山の事に挑戦してみませんか？

##### 応援団長 小笠原 千乃さん (田尻中出身)

古川高校の生徒一人一人の態度は常に意欲的である。勉強ではスキマ時間を有効活用し、部活動では試行錯誤を繰り返しながら自分と向き合い続ける。「文武両道」という校訓は簡単に達成できるものではない。しかし、古高生は校訓を踏まえた上で、行事など生活面でも積極性を示している。古川高校は大崎市で一番優秀な高校という印象を持たれがちだ。しかし、古川高校はそれだけではない。例えば、四月に行われる定期戦。全校生徒が「定期戦勝利」という一つの目標に向かう。厳しい応援練習に耐え、辛い時は励まし合う。目標が達成できた時の喜びはいかばかりか。是非、味わってもらいたい。古川高校は、一人で成長するわけではなく、「互い」に成長し、高めあい続ける。古川高校に入学して後悔することはないだろう。私達とともに三年間を歩んでいかないか！